

# 石炭博物館再生

## シンポジウム

～みんなで作る 夕張市石炭博物館再生プロジェクト～

2015年2月21日 **土**

開始 **16:30**～**18:30** 終了

アディーレ会館ゆうばり 3F  
(旧夕張市民会館)

夕張市本町4丁目3番地(夕張市役所横)

**入場無料**(定員100名)

※事前のお申し込みは不要です。

当日は気軽にご参加ください。

石炭博物館の  
再生には何が必要なのか?



主 催 : 夕張市 夕張市教育委員会  
お問い合わせ先 : 教育委員会 社会教育係

〒068-0492 夕張市本町4丁目2番地  
Tel.0123-52-3166

# シンポジウム 参加者プロフィール

石炭博物館をみんなの手で再生させましょう

## 司会・進行

### 大久保 和孝

これまで数多くの自治体で地域活性化に関わるアドバイザーを歴任。現在、夕張市のアドバイザーを務めている。新日本有限責任監査法人シニアパートナー（公認会計士）。新日本サステナビリティ株式会社常務取締役。慶應義塾大学法学部卒業。厚生労働省年金特別会計公共調達委員会委員長。福澤諭吉記念文明塾アドバイザー（慶應義塾大学）。経済同友会東北未来創造イニシアティブ協働委員会地域メンター（気仙沼担当）。大阪府、長野県、夕張市、京丹後市、日南市等の参与・地域活性アドバイザー。京都大学・早稲田大学等の非常勤講師。ほか

## パネリスト

### 青木 隆夫

夕張地域史研究資料調査室室長。文化財保護委員会。法政大学や道都大学などで教鞭を執り、現在では市民を対象にした「鹿の谷ゼミナール」で座学・野外学習を通じ、夕張の郷土史の保存・継承を行っている。元夕張市石炭博物館館長・学芸員。

### 三上 秀雄

コミュニティガイドクラブTANtan代表。赤平市内で旧住友炭鉱立坑見学会や市内フットパスのツアーガイドとして炭鉱遺産を活用したまちづくりを行っている。元住友石炭鉱業勤務の炭鉱マン。

### 佐藤 真奈美

NPO法人炭鉱の記憶推進事業団研究員。夕張市内を研究調査したことが縁で、市民や町内会との（密接な）行事交流等をしている。札幌市立大学と共催の「そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト」では運営ディレクターを務めており、夕張市内では2011、2014年の2回にわたって「旧北炭清水沢発電所跡」等でアートによる炭鉱遺産を活用したイベントを開催した。

## これまでの夕張市石炭博物館について

### ○開館当初は博物館

夕張市石炭博物館は、1980年（昭和55年）「石炭の歴史、郷土の産業文化に関する資料の保存及び展示施設」として開館しました。夕張市の発展のみならず、日本の近代化を支えた石炭産業をテーマとした博物館は当時では珍しく、「石炭の歴史村」の中核施設として多くの観光客を呼び込むばかりでなく、教育・研究の分野でも注目されました。

### ○観光施設の中核として

観光客誘致の目玉となった博物館は、「炭鉱から観光へ」をテーマに掲げた市の方針のなかで徐々に観光施設としての役割を求められることとなります。特別展やシンポジウムなどの発信事業を行うことが難しく、博物館本来の機能より観光客誘致が優先されていたため、市民との共有性や持続的な関係性は希薄となっていきました。やがて、「石炭の歴史村」を中心とした市の観光事業も斜陽化しはじめ、2006年（平成18年）市の財政破たんにより、破たんに至る大きな要因とされた観光事業は大幅に見直し、縮小を余儀なくされました。

### ○博物館の現状

開館から今年で35年を迎える石炭博物館。財政破たんによる存続の危機を指定管理者制度による外部委託という形で乗り越えて乗り越え、現在まで運営が続いています。ただ、この制度は博物館を観光見学施設として維持管理し、安定的に運営することが重視されており、博物館本来の機能については盛り込まれてはいません。施設も旧式化、陳腐化が多くみられますが、来場者収入の増加が見込み難い現状では、大幅な修繕や専門的な展示見直し等の計画が困難といえます。

現在、夕張市では石炭博物館の役割を「今までの観光施設」から「社会教育施設」へ変えるため、時間をかけて市民やサポーターと共に展示内容や博物館機能を見直す長期的な再生プロジェクトを計画しています。みなさんの意見をお聞かせください。